



part #1 in 2
普通のスーパー編



part #1-①

- 「日本食材専門店」や「アジア食材専門店」でサケが売っているのは当然。しかし「普通のスーパー」でサケは売っているか？しかも、パリでなく、地方都市ボルドーではたしてどうか？
- ボルドー中心部のショッピングモール、メリアディックセンターの「オーシャン」（大型スーパー。フランス全土にチェーン展開する）の酒類売り場を観察。

part #1-②

- サケを発見。「白雪」「京・ブルー(冷酒)」「京・レッド(燗酒)」の3種がありました。サケは醸造酒だけけど、スピリッツの棚の一角にある。白雪は75cl・11.60€、京は50cl・19.35€。
- 「京」は黄桜さんのお酒。この店では「ブルー」より「レッド=燗酒」のほうがよく売れているようでした。

part #1-③

- フランスは今や日本ウイスキーの輸出先1位。(金額で1位。量では台湾に1位を譲る。)
- とはいえ日本ウイスキーはまだマイナー。ただ1種、「竹鶴」がありました。スコッチやバーボンとは1銘柄2~3列だけれど竹鶴は1列。

part #1-④

- ビールは広いフェイスに優に30種類以上の銘柄が並ぶ中、「キリン・一番」33clびん・1.80€と「アサヒ・スーパードライ」50cl缶・1.45€を発見。
- キリンは「ドイツ、ヴァイヘンシュテファンで製造」と記載。アサヒは「プロダクト オブ チェコ・リパブリック」、委託先名は特に記載してない。

part #1-⑤

- 大型スーパーでは「各国食材コーナー」があるのが普通。オーシャンにも日本食材が並ぶ。
- キッコマン醤油のフェイス取りは圧倒的。そのほか、照り焼きソース、チューブ入りワサビ、お米などが定番商品。

番外

- これはスーパーのオーシャンではなく、ボルドー市内の某高級ワイン・コニャック専門店。
- 洋酒の中にサケがただ1種類だけ、「獺祭」が並んでいたのが撮影。「50」は47€、「二割三分」は90€。サケの存在感は高まっていますね。



part #2 in 2 日本カルチャー編

part #2-①

- フランス語で漫画は「BD(ベデ)」だが、それとは別に今や「MANGA(マンガ)」は立派なフランス語。ボルドー旧市街のメインストリート、ポルト・ディジョー通りの書店「モラ」にも、当然「MANGA=日本マンガ」書架がある。(見にくいけれど、書架の上に「MANGAS」の表示)
- 世界に冠たるワインのメッカ、ボルドーにして、「神の雫」(もちろんフランス語版)が人気。全巻きちんとそろう。
- 下の写真は4年前の2008年に撮影したものだが、ボルドーでは有名人のカーズさん(Ch.ランシュバージュのオーナー)の手に「神の雫」が!、の図。(個人的エピソードですが、今回、メドックのレストランで昼食を取っていたら、偶々カーズさんが後から入ってきて、先方から握手のあいさつをしてくれました。顔を覚えてくれていたか、、、光栄でありました。)

part #2-②

- ボルドーのシンボリックなモニュメント、旧市街の入り口にある「ディジョー門」のたもとに、最近「スシ」テイクアウト店、「Sushi Dijeoux」が開店!



part #2-③

- 「<アジア的?>日本食の店」は以前からあったけれど、2、3年ほど前から「<日本的>日本食の店」が増えてきたように思います。日本カルチャーの浸透を感じます。
- 旧市街地の中には「ラーメン」や「カフェ・ジャポネ」といった日本語の看板が。



part #2-④

- ボルドー市街には日本食レストランが数軒ある。中華料理が衣替えしたようなスシ店も多いけれど、美味しいサケ(地酒銘柄)と創作日本料理を提供するお店ももちろんある。その一例は、下記の2ページ目を参照されたし。

http://www.kitasangyo.com/Archive/Data/Sake_Wsly_Paris2011_12.pdf

